事業完了報告書

提出日：2023 年 4 月 12 日

1．事業概要

（1）実行団体名：シェアビレッジ株式会社
（2）事業名　：Share Village
（3）事業実施期間：2020 年 11 月 5 日～2023 年 3 月 31 日
（4）資金分配団体名：一般財団法人社会変革推進財団

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑ 完了　／　☐ 整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2）　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☐ 全て公開した　／　☑ 一部未公開　／　☐ 未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。 競合との競争にさらされている営利企業であるため、資金分配団体と相談の上、「休眠預金等活用における実行団体としての業務ガイドライン」を公開しています。一方で、資金分配団体への規程類の共有は行われています。
（3）　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑ 変更があり報告済　／　☐ 変更があったが未報告　／　☐ 変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。 ただし、JANPIA と協議の結果、資金分配団体による確認をすることとなりました。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）　社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい　／　☐ いいえ

→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(2)　内部通報制度は整備されていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑　内部に窓口を設置 ／　☑　外部に窓口を設置 ／　☑　JANPIA の窓口を利用
(3)　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(4)　関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(5)　コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(6)　ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。 実行団体となったことを受けて、新たに以下の規程を整備しました。 ・役員報酬規程 ・倫理規程 ・内部通報者の取り扱いに関する規程 ・コンプライアンス規程 ・利益相反防止規程 ・文書管理規程 ・経理規程

(7)　報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
☐　外部監査　／☐　内部監査　／　☑　実施予定もない　※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。 法定監査を有する企業の対象外であり、任意監査も事業規模に比して負担が大きく実施しておりませんが、業務執行や財務状況の管理、法令や社内規程の遵守について適切に行うよう日々努めています。
(8)　本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐　はい／　☑　いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☐　自団体のウェブサイトで表示している　／　☐　広報制作物に表示している ☐　報告書に表示している　／　☐　イベント実施時に表示している ☑　その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：本事業の採択時シンボルマークは制定されていなかったので活用していないが、休眠預金を活用した活動を広報する際には言及するようにしている。

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	・ 20220411_Share Village、_コミュニティのある暮らし_にフォーカスした Instagram の運用を開始 - BRIDGE（ブリッジ）テクノ_ - thebridge.jp／時事ドットコム - www.jiji ・ 20220508_移住インタビュー ｜フィットするコミュニティから選ぶ自分らしく豊かな暮らし（秋田県南秋田郡五城目町） - るるぶ Kids - kids.rurubu.jp ・ 20220513_「社長をやってみない？」　高 3 に突然の打診、古里の温泉復活の柱に：朝日新聞デジタル ・ 20220516_湯の越温泉▷2 年ぶりに復活！ 源泉かけ流し&豊富な湧出量が特徴 _ web あきたタウン情報 ・ 20220524_コミュニティコインの機能を一部開放。Share Village、Slack アプリとの API 連携機能をリリース - BRIDGE（ブリッジ）_ - thebridge.jp／秋田経済新聞_ - akita.keizai.biz ・ 20220823_五城目町内川でボランティア作業　湯の越温泉、無料開放｜秋田魁新報電子版 ・ 20221003_シェアビレッジ、“みんなでつくる暮らし”を支援する「ラーニングビレッジ」の第 1 期生募集 - ICT 教育ニュース - ict-enews.net ・ 20221006_Share Village、共助・コモンズの視点から”みんなでつくる暮らし”を支援する学び場「ラーニングビレッジ」を公開。第 1 期生 3 0 名を _ - www.jiji.com ・ 20221006_シェアビレッジ、“みんなでつくる暮らし”を支援する「ラーニングビレッジ」の第 1 期生募集 - ICT 教育ニュース - ict-enews.net ・ 20221009_大雨被害の住民が温泉施設に感謝状 温泉を無料開放 五城目町｜NHK 秋田県のニュース ・ 20221010_大雨被害の無料開放、湯の越温泉に感謝状 五城目の地域住民｜秋田魁新報電子版 ・ 20230216_ 【地域】なぜ「遊び」からビジネスが生まれるのか？ - newspicks.com

広報制作物等	有	・プレスリリース ・PRTIMES（https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/64677） ・オウンドメディア ・プラットフォーム（https://sharevillage.co/） ・note（ https://note.com/sharevillage/ ） ・ Facebook （ https://www.facebook.com/sharevillage.co/ ） ・Twitter（ https://twitter.com/sharevillage_co ） ・Instagram（ https://www.instagram.com/sharevillage_co/ ）
報告書等	有	・3 分くらいでわかるシェアビレッジの企み ・事後評価報告書

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

・ プラットフォーム公開準備段階から本助成を受けることができ、体制の強化を行えたのはもちろん、短中長期の課題の抽出と戦略設定にも伴走いただき、マネジメント部分でナレッジが大いに蓄積、強化されたと感じる。 ・ 我々が取り組むのは、グローバル資本主義が進行する中で、公（行政サービス）と私（民間ビジネス）からこぼれ落ちた地域資源に焦点を当て、デジタル技術を活用し共（コモン）として整えていくというものであり、従来のスタートアップファイナンスでは評価や調達がしづらい領域である。 ・ こうした領域に挑戦するプレイヤーと、取り組みの評価に対して、休眠預金等活用事業と伴走支援が必要であると思う。

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　5 枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を 5 枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

上左・中：aeru 漆の植樹イベントの様子
aeru、国産漆の生産・活用を行う団体、林業者と共同で、漆の植樹を行なった。aeru satoyama コミュニティのメンバーに加え、県内大学生の参加も見られた。この取り組みは 2023 年度春にも実施予定。

上右：湯の越温泉 無事再開
コロナ禍が始まった 2020 年 3 月に閉業となったが、常連と地域内の有志によるコミュニティで運営を担い、2022 年 3 月に再開。月 3,000 名程度の利用がある人気の温泉に。

下左：vuild にてデジタル建築技術の打ち合わせ
マイクロビレッジ・ディベロッパー事業の 1 事例目となる森山ビレッジにて、デジタル技術の提供と施工管理をリードするスタートアップ、VUILD 株式会社との打ち合わせ。森山ビレッジの建材と同様の技術で組み立てられた家具類が並ぶ。

下中：今年度 8 月の豪雨災害時の地域への無料開放で、周辺集落から感謝状をいただく

地域内外から多くのボランティアが参加し、特に被害が大きかった内川地区に位置する湯の越温泉では無料開放を行いボランティアを受け入れた。内川地区の各集落から表彰状をいただいた。

下右：森山ビレッジ 関係者と予定地視察の様子
森山ビレッジ建設に関わる地域内、近隣地域の林業者、建設業者、そして VUILD チームとの一枚。域内の木材の活用にこだわり、密に連携している。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。